特集１

飯舘村の医療の現場から

村は、「村民の今を支える取り組み」の最優先課題の一つ、『医療・介護・福祉環境の強化』に向け、さまざまな角度からアプローチを行っています。

そのような中、昨春、本田徹先生が村に移住し、常勤医として「いいたてクリニック」に着任。『訪問診療』を行っていただけるようになりました。また本田先生の活動を通して、村と医療従事者、あるいは医療従事者同士が、より多くの現場でつながり始めています。医療を必要としながら声をあげずにいる人たちにも手を伸ばそうと試みる、本田先生のアウトリーチの実践が、村の医療環境を耕し、新たな芽吹きを促しています。

アウトリーチ＝「手を伸ばす」という意味。社会福祉の分野では、助けが必要な状態にあるにもかかわらず自ら申し出ない人たちに対して積極的に働きかけ支援を届けることを指します。

本田徹先生の訪問診療

『訪問診療』では医師が診療計画に基づき定期的に訪問します。急変時や緊急時に訪問し診療を行うのは『往診』です。本田先生はその両方を行っています。今回は本田先生の『訪問診療』に同行させていただきました。

飯舘村に移住をして間もなく1年。「皆さんに温かく迎えていただいてありがたい」と本田先生はやさしい笑顔を見せました。「いいたてクリニック」では火曜日の外来を担当。それ以外の日を訪問診療にあてています。

医学的な理由で食事ができない人や酸素吸入が必要な人でも、在宅で医療を受けることができれば、訪問看護や訪問入浴を利用しながら、住み慣れた家で暮らすことが可能です。「よりよい医療を届けるには、生活全般の状況を理解することが大切です」と本田先生。患者さんと対話をする様子からも、一人ひとりの生き方に寄り添い尊重する先生の姿勢が垣間見えます。「いいお医者さんだよ。やさしい人だ」。患者さんがつぶやきます。

訪問診療が多くの人に届き始めた今、本田先生はより深い課題にも手を伸ばしたいと考えています。「声をあげずに一人で頑張っている人にも医療を届けたい。余計なお節介かも知れないけれど。そこに二つの『医療の最前線』があると考えています」。また、「年齢的に、私自身がどこまでできるか分かりませんが、もう少し頑張りたい」と決意をにじませます。「ネットワークを活かして協力体制をつくることができれば、村の医療が持続可能なものになります。診られる人も診る人も共に老いていく、新しいチャレンジでもあるのですよ」。

半世紀に及ぶ経験と信念を胸に、本田先生が飯舘村の医療の未来を見つめています。そして今日もまた、患者さんのもとを訪れ、心を通わせながら診療を続けています。

本田徹先生のこれまで

国内の病院で勤務した後に青年海外協力隊員としてチュニジアに赴任。「日本国際ボランティアセンター」を経てNPO法人「シェア＝国際保健協力市民の会」を設立。国外での医療支援、阪神淡路大震災の医療救援などを行いながら、東京都・山谷（さんや）地区での医療活動、在日外国人の医療支援にも長く携わりました。その活動の様子は平成25年にNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」でも紹介されています。東日本大震災の救援活動では宮城県気仙沼市に入り、福島労災病院（いわき市）の非常勤医を経て、平成31年から高野病院（広野町）の勤務医に。その後、飯舘村で訪問看護ステーションを立ち上げていた星野勝弥さんから村の窮状を聞き訪問したことをきっかけに移住を決意。令和４年４月から「いいたてクリニック」の常勤医となり、訪問診療をスタートしました。

本田先生×草野シゲ子さん（関沢）

森林組合で働くご主人を支えながら農業に勤しみ、ソフトボールもやっていたという頑張り屋のシゲ子さん。ご主人を亡くした後も、家族を大切に、家を守って暮らしてきました。「血圧が高いなあ。シゲ子さんは漬物名人だけど、塩分は摂り過ぎないよう気をつけてね」。敬意を込めていたわる本田先生です。

本田先生×花井トヨさん（伊丹沢）

本田先生のハーモニカで歌を歌うこともあるというトヨさん。５年ほど前に寝たきりになり、帰村後に亡くなった息子の妻・照代さんが在宅で介護しています。刺身や味噌汁が好きで、正月には「餅が食べたい」とリクエスト。あんこ餅・つゆ餅を「うまいなぁ」と口にしたそうです。川俣町内のデイサービスに週２回通う他、「訪問看護ステーションあがべご」の訪問看護も利用しています。

本田先生×岡本 易さん（関沢）

愛妻の葉子（のぶこ）さんと村に移住し夢の実現に邁進してきた岡本さん。昨年病気を患い本田先生が予後を診ています。体調の確認から話題が広がり、友人がラカッセで開いてくれた快気祝いのこと、最近読んだ本のこと、モスクワ留学時代の思い出まで…。本田先生に語る岡本さんの笑顔がどんどん快活になっていきました。

※ラカッセ＝村内のレストラン

本田先生×髙橋タマ子さん（深谷）

髙橋さん（写真中央）は、週に１度の訪問診療で、持病の経過を診てもらっています。「ここは団地の皆さんが助け合っていていいよね。お正月には東京にいる息子さんも来てくれていたんだよね」と暮らしぶりも見守る本田先生。隣家の村山キサノさん（写真右）はクリニックに通院してお世話になっているそうです。